

大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 每月一回廿五日發行

阿武郡報

第三十七號

庶務	一、思想問題に關する講演會	一一
	二、戶數割附加稅納稅狀況	一四
	三、民力演義講演會	一五
學事	一、理科講習會	一六
	二、游泳講習會	一九
	三、阿武郡教育會總會	二一
兵事	一、陸軍簡閱點呼	二二
	二、獨逸存廢に就て	二五
	三、今昔列強勢力の比較	二九
	四、軍隊慰問地見送	三一
産業	一、混食講演會	三二
	二、麥多收作共進會	三三
	三、農業巡回展覽會	三四

第三十七號



神社祭禮の意義

阿武郡神職會主催に係はる思想問題に關する講習會講師大宮兵馬氏の來稿を讀みし本月二十三日日本郡々會議事堂に於て一般に對し講演會を開催せり同氏は島根縣出身にして我國國學者として令名高く現に東京國學院大學講師たり當日「神社祭禮の意義」に就て講演せられたる概要を掲ぐれば左の如し

抑々神社の祭祀はその形式宗教的なれども實は宗教にはあらず。又教會神道と同一視すべき性質にあらず。元來宗教とは語義よりすれば宗は大本又「オホモト」にして教を宗とす或は宗の教の意にして或もの

大正八年八月廿四日印刷
大正八年八月廿五日發行

發行所 山口縣阿武郡萩町
山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷
印刷所 萩 響 海 館

にもどつきて起る教なり更に西洋學者が下せる定義中
 稍々意を得たりと思はるゝ二、三のものを擧ぐれば第
 一に宗教とは過去を感謝し未來を祈願する事及び包容
 せられたる人類の生活なりてふこれなり。後者は人類
 生活は神に包容され宗教より離るべからず即ち或靈の
 方に依り宗教者、無宗教者、何人か問はず皆人類は生
 を終ふべきものなりとの意にして今これ等の定義を神
 社に適用せんか先づ第一に神社が宗教に似たりと思は
 る、點は神に包容され過去を謝恩し未來を祈願する個
 處即ち前述定義の第一、第二に共に當に符され神社
 の成立性質等より詳細に究めんに實に根本的相違を
 有す。神社は歴史的事實的のものにして過去の事實の
 結晶物なりとす然るに一斑宗教に於ては理想的にして
 未來に向つての希望なり更にこれを言へば釋迦に於い
 ても「イエスキリスト」に於ても所謂教祖なる一個人
 の理想即ち衆生濟度又は博愛等の如きも未來に於て安
 樂世界或は天國を求めんとする希望に外ならず。神社
 は實に然らず何れも雖も皆史的事實に立脚せざるはあ
 らざるなり。元來過去を謝恩するとは人は精神即ち靈
 隠り身と肉体即ち現を身との一致せるものにしてここ
 に始めて人たるの働きを生じ有機的の肉体には際限あ

るも隠り身なる靈體は造化の神の御魂の働きなれば永
 久に不滅なるものなり故にこれを對象として謝恩崇敬
 する事にして漠然たる事にあらず。次に宗教には國境
 なしとあるもこは西洋流の淺薄なる思想にして我神社
 の何物たるかを知らざる者の痴言なりと言はざるべか
 らず。寧ろ神社祭祀は「ギリシア」「ローマ」其の他諸外
 國には見る能はざるものにして特に我國にのみ始めて
 存し然かも我國土の膨脹と共に神社の數は増加し常に
 國境に伴ふ性質あるが故に宗教には國境ありとなすが
 妥當にして須らく我國民には斯の如き大見識を有せざ
 るべからず。即ち日本領土の擴張と神社祭祀の意義は
 擴張され神社祭祀を盛にするの所以は實に國土の擴張
 に存す臺灣朝鮮等新附の地に各々神社の建立あるは實
 にこの意味に外ならず即ち國家は神社或は神社即ち國
 家なれば祭祀の一致は當然にして祭りごとこれ政たる
 なり。我皇室に於ては元且に當りて政治始め
 を行ひ給ふ御模様を拜承するに先づ總理大臣が奏上す
 る其の前年に於ける伊勢神宮及び諸官國幣社の祭祀滯
 り無く終了せし儀を開召されたる後政治始めの第一日
 の式を終へさせ給ふといふ。之れに依るも神社と國家
 の關係は明なり加之神社は歴史的事實的吾人の先人を

祀るものにして彼の單なる理想的の漠然模糊たる者に
 あらざればこれを祀るには生者に仕ふるが如く神如在
 の祭祀を以てすこれ等は即ち神社の性質を語れるもの
 と言ふを得べし。同時に神道が宗教となれる時は既に
 事實及び歴史を失ひ理想的のものとしてその性質を一
 變することを附言す。次に神社祭神は第一に皇室の御
 先祖第二に祖宗に仕へて功績ある吾人國民の祖先又こ
 れには造化の神即ち大宇宙萬有の根本神たる三神の靈
 體として隠り身の神も肉体の神も又その靈體の分体を
 祀れるもの等あり而して萬有の根本神たる天御中主神
 を祀れる神社は無し、或者は之を怪しまん乍而後天照
 大神の勅のまに、即ちその歴史的事實に依り祀られ
 たるはあれど天御中主神に就ては歴史的事實的にあら
 ざればこれを祀るべき神社無しと云ふも怪しむに足ら
 ず又一神教より見て日本は根本神を祀らずと云ふも何
 等不都合無く元來日本の神の個別的ならずして系統的
 關係を有し八百萬の多神を祀るは根本神たる天御中主
 神を祀る所以にして西洋流の多神とは異なれり實に一
 神にして多神なるを知らざる者の言なり。實際八百萬
 神の靈的即ち隠り身の惣勘定は實に根本神たる大御中
 主神一神に歸すが故なり尙氏神に就いて述べんに。抑

々氏神と産土神とは意味に於ては稍々同一なれども氏
 神は産土神に吾人の源泉の神にして過去の神なり産土
 神は元來名主大名小名等の如く「ナ」は土地を意味しス
 は爲にして産爲土即ち土地を守る神にして以上二神は
 一は隠り身にして靈的、一は肉体神にして土地の神そ
 の神の御魂の働が前者氏神にして異名同一の神なるな
 り所謂國魂神として諸國に祀らるる所なり。又平安初
 期より諸冊二神以來の封建制度は破れ分權制度に改ま
 れると共に國々の政を執るもの政治的關係をこれに附
 し即ち當時藤原氏勢力盛なればこれが氏神たる春日ノ
 神を其地に奉じて治を計り在來の國魂神に併祀し土著
 の民は何時しか威歴のまに春日ノ神を祀るに至り遂
 に己れの氏神を春日ノ神として怪しまざるに至れり或
 は鎌倉時代源氏の氏神たる八幡大神を同様政治目的の
 爲めに祀り或は鎮守國替に當り常に氏神を任國に携帶
 しかく種々の沿革の下に今日各所の氏神をなせり故に
 今日氏子がその氏神にあらざる氏神を崇敬するは無意
 義ならずやてふ疑ひあらんもこは誤るべからず元來
 初めの國魂神に併祀せるに過ぎざれば春日神社なる或
 氏神社あれば春日ノ神なるその奥の最後の扉を開けば
 初めの國魂神即ち眞の氏神坐しますべく或は八幡様な

る社には春日ノ神も坐しませすべく最後の奥には其の土地の國魂神坐すべき理にて要するに己れの氏神を崇敬するに外ならざるなり終りに一言すべきは佛教盛なりし時北條泰時の貞永年中に出来たる貞永式目一名御成敗式目の第一條に「神社を修理し祭祀を重んずべき事此の註に右神は人の教に依つて威を増し人は神の加護に依つて福を漏らさず」とありこの式目は當時爲政の根本たるべきものにしてその第一條にこれあるは即ち祭政一致を裏書するものなり以上要するに我國神社祭祀の消長は國家の隆否に關聯する事を自覺し益々敬神崇祀の念を高め萬邦無比の我國體をして愈々光輝あらしむることに努められんことを切望す。

庶務

戸數割附加税納税狀況

本年六月納期に係はる戸數割附加税を徴收せる町村の納税狀況を掲ぐれば左表の如くにして表中萩、椿郷東分、椿、佐々並、篠生、六島の六ヶ町村は年二回徴收の第一期川上、奈古、宇田郷の三ヶ村は年四回徴收の第二期の

Table with columns for village names (萩, 椿郷東分, 椿, 佐々並, 川上, 篠生, 奈古, 宇田郷, 六島) and rows for tax status (前納, 納者數, 滞納者數, 増減, 所在不明, 貧困, 怠慢, 其他, 計). Includes a note about the comparison of the current period to the previous period.

思想問題に關する講習會

八月二十日より同二十四日に至る五日間本郡々會議事堂

に於て阿武郡神職會主催に係はる思想問題に關する講習會を開催せり講師は東京國學院大學講師大宮兵馬氏にして「教育勅語の根本義」の題下に皇國道義の起因由來より神祇神社の史實的意義に論及し多年研鑽せる所を披瀝して所説蘊奥を極め神職、教員及其の他地方有志等多數講習生に對し最も明晰なる理解を與へたり。

民力涵養講演會

本郡神職會に於ては厚狹郡萬倉村河本眞澄氏を聘して去る七月二十五日より八月五日に至る間郡内田萬崎外十ヶ村に亘り民力涵養に關する講演會を開催せり講演は出席者の狀況に依り最も通俗にして且熱烈を極め一般聽衆亦靜肅聽講して多大の感動を與へたり其の狀況左の如し

Table with columns for date (日), time (時), village name (村名), venue (會場), and audience count (聴講者) for the 'Minami Rikyo Jukai'.

學事

理科講習會

阿武郡教育會に於ては歐洲大戰亂の教訓に鑑み戦後教育改善上理科教育の革新を圖らんが爲め廣島高等師範學校教授大島鎮治氏を招聘し郡立實科高等女學校内に於て理科講習會を開催せり開期は八月十一日より全十六日迄六日間にして前四日間は一級講習生に對し理化の基本的智識を講演し後二日間は各小學校理科主任者のみに對し實

Table with columns for date (日), time (時), venue (會場), and audience count (聴講者) for the 'Science Lecture'.

驗指導の講習をなせるが講習員としては郡内小學校教員を主とし毎日午前七時より十一時迄四時間宛にして十四日正午より講習証書授與式を舉行せり當日來賓としては齋藤實科高等女學校校長を始め新聞記者等にして先づ東幹事長は會の経過を報告し岡村會長は講習員惣代多磨尋常高等小學校校長櫻井民治郎氏に講習証書を授與し會長の告辭講師の挨拶齋藤實科高等女學校校長の祝辭會員惣代櫻井民治郎氏の答辭ありて午後一時閉式せり當日講習証書を授與せられたるものは二百十名にして十四、十五兩日の理科主任の實驗指導は出席者四拾貳名なり、而して本講習會期間に於て課外講演として萩町秋山中佐及守重光樂寺住職兩氏を招聘せしが守重師は「修養眼に映じたる二河白道譬」、秋山氏は「西比利亞所感」と題し熱心に講演せられ會員に多大の感動を與へたり

□游泳講習會

例年の通り去る八月四日より同十七日に至る貳週間萩町菊ヶ濱に於て本縣教育會、阿武郡教育會聯合の下に熊本縣人小堀流水泳講師神山鐵男氏を招聘し游泳講習會を開催し十七日午前九時萩中學校兩天體操場に於て閉會式を

舉行せり來賓は岩田萩中學校校長、齋藤實科高等女學校校長新聞記者其の他にして東幹事開會の挨拶ありて岡村會長は講習生百十七名に對し講習證書を授與し本縣教育會長の式辭を代讀し來賓の祝辭ありて閉會せり因に當日は閉會後游泳所に於て游泳技術演習を爲し來賓に觀覽せしめたり

□阿武郡教育會總會及史蹟保存會並青年團幹部會

八月十三日午後一時より阿武郡立實科高等女學校講堂に於て第十二回阿武郡教育會總會外二會を開催す當日來賓の主なるものは大島廣島高等師範學校教授、小倉萩町長篠原海軍大佐、岩田萩中學校校長、齋藤實科高等女學校校長井上朝鮮京城女子技藝學校校長及新聞記者等にして出席會員貳百五十名東幹事長開會の挨拶唱歌君が代に次で岡村會長勸語を奉讀し東幹事長會務を報告し岡村會長は約一時間に涉り本郡教育の向上發展につき最も熱烈に意見を發表して告辭に代へ終つて岩田萩中學校校長は「統一支出稅贊成管見」大島廣島高等師範學校教授は「科學と社會政策」と題し井上京城女子技藝學校校長は「朝鮮に於ける狀

況につきて「何れも熱心に講演せりそれより岡村會長より「青年團員懸賞課題金貳圓を與へなば如何に有郊に使用するか」との題を出し答案は九月末日限りと宣し夫れより本郡教育振興策如何と題し會員白水尋常高等小學校長三上純象外六名の意見發表ありて午後六時終了散會せり當日の講演要項左の如し

▼統一支出稅贊成管見

岩田萩中學校校長

私も教育者の一員なり。完全に導くに二つの方法あり即ち前へ引くか、後へ突くかあり、引くにせよ、突くにせよ、何れも其の方向に進むべきにあり。私の専門は英語なり。然るに本演題は恰も稅務署長の感あり。然し我々は研究すべき問題も多々あるべきも、目下社會問題思想問題の如きは急務なるものなり。しかし思想問題の如きは決して之を防ぎ得べきものにあらず寧ろ來い、主義を以て之に向ひ大に我國に善用すべきなり。勞働問題の如き婦人問題の如き又今時の大問題の食糧問題の如きは實に塞心すべき至りなり。今迄の如く米の飯のみにては大に差支あり、大に外國米もやるべし混食もやるべし。

さて、統一支出稅は、納稅を統一奢侈稅制によるべしと云へる意なり。京都大學經濟學部長神戸正雄博士の新編所得稅改正に統一支出稅即ち統一奢侈稅に就て大に之を論じ國家活動の基礎は財政の整理稅制の改正にありとせり。又大正五年金井延博士、記念論文集或は大正六年、經濟論叢の單本に租稅研究等何れも此の方法を論究し萬朝報、七月三十日同三十一日號に於ても同じく統一支出稅法を力論せり。支出殊に奢侈的支出の大小によりて納稅能力の基礎を置べきこと、所得全体に課稅せず、即ち奢侈品に對して之を課し所得全体にあらざるなり。例へば茲に

甲 一萬圓	二千圓支出——生活費
(乙) 五千圓	八千圓放資
	四千圓支出——生活費
	一千圓放資

現今の稅法によるときは乙は甲の倍額即ち甲の生活費は二千圓乙は四千圓の生活費を支出して奢侈を爲すと雖も甲の所得一萬圓なる故甲は乙より多額の納稅をなさざるべからず、然るに統一支出稅法に仍る

ときは例へ甲は所得一萬圓乙は五千圓なるも乙は甲の倍數の奢侈費を爲し一而甲は八千圓の放資をなして大に國家社會の爲め活動して公道の爲め人道の爲に盡すこと多大なり。即ち租税にて生活必要費を侵さぬ思想より乙の所得は甲の半分なれども比較的奢侈生活なれば此の方に多くす、約倍の理屈なるも累進税制により約三倍の課税をなすにありと云ふにあり。現今の如く甲を倍の収入所得として課税せば質素生活費を侵すか又は國家發展上必要なる放資を侵すことなるなり。又所得の申告は各個よりなされ、家族數前年度の生活費、放資額等を知り一定の標準によりて課税するが故に俸給生活者等の課税率は容易なりとす。

奢侈は貧困の根本原因なり。奢侈をなす者直に貧困に陥るとの意義にはあらざるあり。富裕なる社會の一部の者奢侈的消費をなすが故に他の多數の者が其の貧困状態を脱することを得ざるに至るべきの意味にしてカルマルツの唯物史觀經濟史觀にも悪い事を爲なければならぬ社會組織の儘にて改良進歩に努むるは無駄なことなりといへり。河上博士の社會問題研究第三號に於ても又詳論せる所あり(自分相應)

乏しき故に物價は高し、貧乏人多き故に貧窮するなり。身分相應觀念を止め必要の程度によるべし。奢侈とは人生活上必要ならざるものを要求消費すること(贅澤)にして器械器具には罪なし。要は理想的生活即ち肉体的、精神的、道德的の三生活を本旨とす以て社會の進展に貢献することなり。消費は人生の真正なる欲望を標準とせざるべからず、化粧品、葡萄酒の價の不徳の如き實に言語同断なりとす。乍ら普通經濟論より云ふ時は、一切の欲望を是認し欲望増進即ち經濟的發達の動力として歓迎する所なるべし。今回大に奢侈品生産力の轉換を爲すべし主として米に於てなすを急務とす。

酒一ヶ年五百萬石一升一圓として五億圓を算すといふ吾人大に節酒すべきなり。又大に開墾を行ふべし全國四十七縣の開墾地は二百二十萬町歩にして内水田八十萬二千五百八十一町歩畑四十二萬六千八百六十九町歩とす而して水田は北海道、秋田、新潟、茨城、山口にして我山口は五番目にして二萬五千四百二十五町歩あり畑は北海道、茨城、栃木、千葉、秋田、新潟、青森、埼玉、沖繩、山口にして我山口は十番目にして二萬二千六百六十七町歩あり。以上合計するときは

(收入相應)と云へることは大なる誤なり、實に眞違の甚しきものなり。東都の成金の細君が箱根一夕の宿泊料五十圓の如き京都成金の娘の嫁入仕度三百圓の如きは近く神戸の成金の庭石五十萬圓の如きは實に世を害するものなり。又萬引の如きも大に同情すべき點なしとせず。三越、白木屋、高島屋、天賞堂玉屋の如き萬引の心理の研究所にして事業は人を尊重し人の心理を尊重すべきなり。如此商店は罪人を作る場所なりと言はざるべからず。

需用(購買力)を伴ふ要求は生産力を支配す。生産販賣を私人營利事業とするの可否の如き特に生活必需品に於て然り。今日米價の驚くべき高價をなしたるは米の少きにあらざる彼の小郡山口其の他の自働車買の如き實に驚くべきにあらざるや。煙草、鹽、郵便、鐵道の如き官營と對照せばよく了解すべきなり。故に生産、販賣、購買、組合等の必要あり。購買力あれば有害商品も生産を促進し努力を吸収す。生活必需品、店頭に美々しく陳列しあるも必要品の購買に困る者多々ある奇現象あり。文明に對する失望なりと云ふ。又市價を高低と云ふは購買力より云ふのみ即ち所持金に對する割合なり、社會多數人が購買力

北海道、茨城、秋田、新潟、千葉、栃木、青森、山口にして我山口は八番にして四萬八千〇九十二町歩なりとす。
開墾の畑地には麥、薩摩芋、馬鈴薯、小豆、大豆、蠶豆、玉蜀黍、南瓜、雜穀等を栽培すべし。
開墾田地よりは米一俵四斗一一反六俵の計算にて二百萬石の増收を得べし。我國は平時は二百萬石凶年にて五百萬石の不足なり米の賣出方法としては十二月月に分ちて賣出さしむるにあり。結論、奢侈的購買を國民各個の自覺より抑制し奢侈品の生産力を生活必需品の製作に轉換し以て國民の眞生活理想生活即ち肉體、精神、道德の三方面なる生活上必需品の供給を豊富にし。一方納税を統一奢侈税制によりて眞生活費に侵害せざることとして替澤を制肘し以て眞義の國家進展の爲めに全力を投資せしめんとするにあり。

◎ 兵 事

□ 陸軍簡閱點呼

本年度本部の陸軍簡閱點呼は客月二十一日徳佐村點呼場を始めとし本月十四日山田村點呼場を最終に豫定の如く施行せられたり點呼執行官は山口聯隊區司令官林歩兵大佐ありしが途中歩兵第三聯隊長に榮轉せられ七月二十七日須佐村にて歩兵第四十二聯隊附松下歩兵少佐と交代せらる其の隨員は山口聯隊區司令部附岡田歩兵曹長なり本年の點呼は町村當路者並に在郷軍人會役員諸氏の努力に依り點呼場に於ける動作、姿勢態度等良好にして殊に未教育者に對し至大の努力ありしことは點呼場に於て能く其の績を認められ大に其の勞を多とする所なり尙又本年は軍服着用者別表の如く多數にして點呼場に一段の光彩を放するの感あるのみならず其の動作亦極めて嚴正なり就中佐々並村の全員軍服を着用せる明木村の殆んど全員軍服を着用し奉公袋、貯金通帳會員徽章等全部整備しある嘉年、三見、福賀、奈古、小川村等の如き殆んど全員軍服着用せる如き嘉年村の昨年及本年とも一名の事故不參者なき等誠に快心の至りに堪へざる所なり其の詳況別表の如し(參考資料參照)

尙本年山口聯隊區管内に於て三ヶ分會模範分會として寺内在郷軍人會長より表彰せらる本部に在りては佐々並村分會其の一に加はり本月八日同村の點呼終了後左記賞狀

の授與式あり昨年は明木村分會の表彰せらるゝあり今又佐々並村分會表彰の榮を享く一郡より二個の模範分會を出す誠に爲邦家慶賀に堪へざるなり尙益々奮勵此の種分會の多からんことを否郡内全分會表彰の榮を擔はれんことを希望して止まざるなり

賞狀

帝國在郷軍人會佐々並村分會
帝國在郷軍人會規約第五十六條ニ據り茲ニ賞狀ヲ授與シテ模範分會タルコトヲ表彰ス

大正八年七月五日
元帥陸軍大將從二位勳二等功一級伯爵寺內正毅

帝國在郷軍人會佐々並村分會

右今般帝國在郷軍人會規約第五十六條ニ依り模範分會トシテ光輝アル賞狀ヲ受ク是レ單ニ分會ノ光榮ノミナラズ同村一般ノ誇トスル所ニシテ畢竟會員ノ協同一致力行ヲ慎ミ規律ヲ守リ規約第五條ノ各事業ヲ奮勵努力セシ結果ニ外ナラズ殊ニ地方官民ノ信頼厚ク青年團ノ指導亦宜シキヲ得各自勤儉貯蓄納稅及會費ノ滯納者ナク其ノ成績見ルヘキモノアリ今ヤ國民一般精神ノ緊張ヲ要スヘキノ秋ナリ會員ハ一層奮勵努

力國民ノ中堅タル時期ニ這般ノ名譽ヲ益々堅實ニ發揚セシコトヲ期セザル可カラズ茲ニ本銃一組ヲ贈リ之ヲ表彰ス

大正八年八月八日

帝國在郷軍人會阿武郡聯合分會長

陸軍歩兵大佐正 北川 爲吉
五位勳三等功四級

獨逸俘虜に就て

本年七月十七日第五師團司令部に開催せられたる縣郡市兵事主任書記集會の際似島俘虜收容所を視察せしめらる平和克復の今日俘虜の情況を紹介するは所謂六莖十菊の感なきにあらざるも亦吾人の以て參考すべきもの尠なしとせず左に菅沼俘虜收容所長の談を載録して一般の參者に供す因に當日俘虜人員十五名の唱歌、音樂等の催しありしが能く整正一致面に倦怠の色なく如何にも誠實に事に従ふ態度は特に快感を覺へしめたり

獨逸俘虜に就て

俘虜收容所長菅沼大佐談

今日は諸君が態々當收容所を御覽になりますに付き先づ俘虜一般の概況を説明しやうと思ひますが何分

二三十分の時間しかないから極めて單簡に要點のみを御話するに止めますから悪しからず御承知を願ひたい

日獨戰爭に於て青島陥落の結果我軍の獲ました約五千人の俘虜は初めは日本内地十一ヶ所の俘虜收容所に收容されましたが現今は習志野、名古屋、板東、青野原、似島、久留米の六收容所に收容されて居ります當似島の俘虜は大正三年大阪に收容し同六年二月當所に移したる者にして人員現時は五百二十一人内將校三十人准士官三十一人他は下士身分の者であります其他今日迄に解放されたもの二十人病死者八人あつたのであります

此の俘虜は日常如何なる生活状態にあるかと申しますると先づ彼等の給與に就ては將校には日本將校と同様の俸給を毎月支給し一切の生活費は之れにて自辨せしめ下士卒は金錢を給することなく一切現品を給するのであります即ち其の糧食は一日一人三十錢以内を被服補修消耗品等も夫々一定の額に依りて支給せらるゝのであります而して其の生活は總て自營的で糧食の調理炊爨被服其他物品の修理散髪に至るまで凡て俘虜を使役し定められたる極めて少額の賃

銀(兵卒一日四錢)を給して居るのであります將校には二人に一人の割で從卒を附してあります日々の日課は起床人員點呼診斷食事就寢時刻を定めあるのみで他一切俘虜の自由に委せてあります彼等は各人思ひ思ひに其日の日課を定めて何かの仕事となし終日安閑として暮し居る様のもは殆んどなしと云ふ有様で獨逸國民性を發露しつつあるのであります

即ち學科の研究、書籍、新聞、雜誌の耽讀各種の技巧、耕作家畜の飼養、娯樂、運動等に其の日を送りつゝあるのであります又收容所新聞を發行し此れには主として大阪朝日、大阪毎日の外國電報等を翻譯記載し世界全般の景況を知るに努めつつあるのであります

以上述べたる處に由れば俘虜生活も極めて安氣の様に思はれますが一面取締方に就て申せば彼の國民軍俘虜にして戦前青島に在りし富豪家の如き宏壯なる居宅を構へ出るに自働車あり入りては美味美食に飽くの狀態にありし者も漸く身を入るゝに足る彼等の目から見れば豚小屋同様の木造廠舎内に雜居して毎日極めて單調なる一定量の兵食を執らねばならぬ所

ば誰れか國防を充實せしめると云ふ感念を起すと共に國軍は益々精銳でなければならぬ國力は愈々強大でなければならぬと云ふ思を切らしめないものがあつてやうか

次に御話しやうと思ふことは吾々が永年彼等を取扱來りました上から研究致した彼の獨逸國民性に關することであります此の事も詳しく申さば色々澤山ありますが爰には吾々をして極めて印象を深からしめた次の三點に就き申述べやうと思ひます

第一は意志の強固なること所謂剛堅なる意志と精神を彼等が有して居ると云ふことであります此の意志の強固なること云ふ事は獨逸人に通有の様でありまして何事をも思ひ志したことは飽くまで遂行せねば止まない云ふ精神は俘虜に於て常に窺はれ得るのであります例令ば彼等が自己の希望を請願するにも甲に云ふて聞かれざれば乙に行き乙にはねらるれば更に丙に丁に或は時機を異にし手段を更へて申立つること實に執拗にして鐵面皮とも云ふべきであります而して此の如き精神意志が彼等が或る仕事を上に見ましても明かに現はれて居りますこととて命じた事と云はず自己の考へてすること云はば實に責任

持金は制限せられ金がありても思ふ物を買ふ事も出来ず彼等の戀しき妻子に宛つる通信も制限せられ總ての信書端書は檢閲せられて少しにても不都合のことがあれば沒收せられて思ふ事を書くことも出来ず將校以下一日二回は屋外に整列して必ず人員點呼を受けねばならず所外運動としては一週二三回限られたる地域に監視兵附でせられねばならず面會者には立會を附せられ思ふ様の話しも出来ず日常の起居も規律違反の行爲あらば直ちに營倉處分を受けなければならぬ彼の東洋方面に家族を殘留せし者の如きは平和來と共に一日も早く其の妻子に會ふべく喜んで居たにも拘らず今春以來支那に於ける獨逸人は追出されて愈々遠くへ隔てられ今や平和となれるも財産管理の爲め彼等の貯金ですら嚴重に管理せられて思ふ様にならぬ此の如き精神的自由の束縛を受け常に煩悶しつつあるの事情を思へば何人も一生俘虜となる勿れの感を懐かない者はないのであります亦彼等は此の如き俘虜生活に五ヶ年間をこらへ來りた今日漸く平和となり間もなく歸國が出来たとしても更により大に猛烈悲惨なる經濟戰に我子孫の代までも惡戰苦闘を續けねばならないと云ふ苦狀を察すれ

を重じて熱誠其の仕事に努力すると云ふ事が認められ彼等が異變のありました場合に狼りに附和雷同的動搖を來すことなく何時も平氣で自己本來の意志を曲げないと云ふ事も慥に認められて居るのであります此の意志の強固なることが將來彼等獨逸國民の國力回復に於て大なる力を有することであらうと察せらるのであります此の點は我國民の大に鑑みるべき處であらうと思ふ

第二には彼等の研究心であります何事によらず事物を眞面目に研究し組織的に緻密に研鑽討究に努むると云ふ事が彼等俘虜生活に於ても大に認め得らるのであります之れ等の實例は澤山ありますが最も強く感ずる所のものは五ヶ年の永き俘虜生活に放浪に流れんどもせず自暴自棄に陥らんどもせず終始同一の狀態にありて學術の研究に従事して居ることです現に俘虜の私費を投じて建築したる娯樂廠兼講堂に於て目下も毎日研究しある所のものを擧げますれば日本語、日本文法、英語、漢文、算術、代數、物理簿記、音樂、唱歌等の十課目之の教官たる俘虜十名生徒百六十名と云ふ有様で中には四十歳以上五十歳近くの老年もあるのであります俘虜生活に五ヶ年を

經過したる今日漸く平和になりまして彼等は歸國準備に忙はしく近く本國に歸り待ちに待ちたる妻子に遇はるゝと云ふ時機も最早目前に逼り普通の人ならば喜びの餘り學科の研究の如きは手も付かないと思はるゝのでありませうが彼等の状態は全く之れに反して居るこれを考ふれば之れ亦彼獨逸國力の回復に大なる力を添へることであらうと思ふのであります

第三には時間の勵行で之れは實に羨ましく感ずる所でありませう彼等が時間を尊重して一刻一秒も誤らぬと云ふ事は特に勉める譯にはなく此れが第二の夫性となりあるかの如く感せしめる所で自然に何人も此の感念を有して居る様であります假令は何日に検査をすると命すれば必ず先づ彼れから時間を聞く又所長に何にか面談したいと云ふ如き場合には必ず其の時間を聞き許を受け命令若くは約束した時間は決して間違なく廻ることも忘るゝことも未だ嘗てなく誠に心地よき感に致すので往々事務室に来るべき時刻に却てこちらの準備が整はず彼等へ待たせを喰はすと云ふ様の事もあるものであります要するに時は之れ金なりと叫ばれてある精神を彼等は充分に理解し實行しつつあると云ふ事は疑もなき事を我邦に於て

軍隊時間と地方時間と區別して平氣で居ると云ふ様の事は更にないのであります

さて思ふに此の世界に於て人間萬事皆此の意志と時間とを基礎とせぬものはない何事をなすにも意思なければ成就せず此の意志は薄志弱行ではいけない剛堅なる意志でなければ役に立たないものである又何事にも時間の伴はぬ所のものはない此の貴重なる時間に對する感念は實に大切であると云ふことは爰に申述べざる迄もないことであらうか研究とか時間とか云ふ事は極めて平凡ではありまするが所謂平凡の内には眞理ありて時間問題の如きは絶へず論せられてありますませう我邦に於てはまた勵行出來ないと思ふ事は如何にも残念であります彼の獨逸の存生生活にすらも劣ると云はなければならぬことを感ずるのでありますやうか諸君以上申述べました三點を以て今日此處に御出になつた御土産となし下されば私の本懐之れに過ぎない

最後に精神上の事を是非申置きたいことは即ち國家觀念の事でありませうが彼の獨逸の政事革命に對する獨逸存廢の感念で彼等が地球上何物も及ぶものがないと思ひ居りました獨逸皇帝の退位も差程の悲しみ

憤慨もないと云ふ事亦彼等の愛國心は自個中心利己的にして俘虜の中には其の本國を見捨てて他國に行かんとするものも尠くないと云ふ事は吾人日本人として極めて奇怪に感ずるのでありまするか之れ乃ち君ありて民ありと云ふ我國體と相反して民ありて主權者ありと云ふ民主主義より成立つ彼等に取りては至極普通の考と思はるるの外はないので此點が即ち忠君愛國の精神の根柢に於て差ある所以であることと思ふのであります此の如き批評と感念は實に世界中日本人に限り爲し得らるる所の貴重なるものでありますと共に國民性として多くの美點を有して居る彼の獨逸國民に於てすらも猶精神上の弱點を有して居ると云ふ事は明瞭であり彼等俘虜中にも爰に覺りて吾人に向ひ御國は實に宜しい皇帝の地位は萬世不易であり國民の生命財産は何時迄も安全に保護せられ人として身を置くには貴國に如くはなしと云ふ者が此頃漸々多くなりましてが誠に然りて此點に於ては日本人たる者決して國家成立の基礎根柢を異にする西洋思想に捉はれてはならぬ又益々我邦獨特の精神を砥礪し發揮せねばならぬと思ふのであります此點は特に力言して置く次第であります

因に俘虜の体格は身長最高六尺三寸最低五尺一寸五分平均五尺六寸三分

体重 最重二十六貫七百匁、最輕 十四貫四百匁、平均十九貫三百五十匁

收容當時の年齢大五十三、最小十六歳なり以て其の体格の如何に偉大なるかが分りませう

今昔列強海軍勢力の比較

吳海軍人事部より海軍軍事通信として發表せられたる今昔に於ける列強海軍勢力の比較別表の如し

今昔列強海軍勢力ノ比較		日清戦争前(明治廿六年)		日露戦争前(明治卅六年)		歐洲戦争前(大正三年)		休戰條約時(大正七年末)		大正十年末	
英	佛	露	米	日	支	伊	奧	英	佛	露	米
13	6	2	1.5	1	15			6	9.9	1	不明
6	1.1	1.2	0.9	1.7				8	9.9	1	不明
9	0.8	1.8	1.35	1	6			8	9.9	1	不明
6	0.9	1.9	1.37	1	5			8	9.9	1	不明
5	1	2.7	不明	1	不明			9	不明	不明	不明

注意

- 一、日本海軍勢力を標準とす
- 二、我海軍の勢力は日露戦争前に於て最も向上せる關係にあり
- 三、太平洋彼岸米海軍力の激増は最も注意の必要あり
- 四、歐洲戦争に於て英に對する獨勢力の約六割は遂に國防を完ふること能はざりし教訓を興へたるのみならず古よりの海戦史は對者に比し最少限七割以上ならざれば國防を完ふせざりしは勿論多くは國家滅亡の厄に遭遇せり
- 五、近き將來列強勢力の集中疑なき極東方面特に太平洋方面に對し須く活眼沈思の必要あり

軍隊慰問並に見送

當第五師團は今般西比利亞に出征に付左記の通本郡出身者を慰問挨拶す

慰問

山口部隊郡長各町村長は八月一日午前八時步兵第四十二聯隊に至り本郡出身將校以下全員を營庭に於て會見慰問辭を述べ從軍記念手牒一冊を贈呈す

廣島各部隊郡長及町村長總代たる萩町長、福川、大井、彌富、小川の各村長は八月二日廣島屯在各部隊の郡出身者を慰問し前項同様記念手牒を贈呈す

見送

山口部隊山口歩兵第二十一旅團司令部、步兵第四十二聯隊八月十二日徳山にて乗船出征に付郡長町村長總代たる椿、山田、佐々並、吉部、紫福、奈古の各村長と共に同地に出張各部隊長に出征の祝詞を述べ見送を爲す
廣島各部隊第五師團司令部、騎兵第五聯隊は八月十三日宇品港にて乗船出征に付郡長、町村長總代たる三見、川上、徳佐、高俣、田萬崎の各村長同地に出張前項同様見送を爲す


産業

混合講演會並馬鈴薯飯試食會

生活を簡易にし生計を低廉にし以て家政經濟の改善を圖るは國民の幸福を増進し國家の基礎を鞏固にする所以なり

り從て刻下の如き米價暴騰の趨勢に鑑み節米の要益々急なりとし中川本縣知事は曩に告諭を發して節米と混合及代用食を奨励し一面縣下各地に講師を派遣して混合講演會を開き併せて馬鈴薯飯の試食會を催されたり本郡に於ける講演は八月十八日郡立實科高等女學校に於て開く出席者は官公署員、各學校教職員、女學校生徒、在郷軍人其他地方有志約二百五十人先づ山根本縣農業技手は全國米の需給關係、外米輸入の状況、及節米に對する政府の方針、混合獎勵の趣旨、馬鈴薯の増殖並馬鈴薯飯の炊き方等に就て講演あり次で同校家事科擔當教諭は馬鈴薯「パン」の製法に就き實物を示して詳細なる説明を爲し終て寄宿舎食堂に於ける馬鈴薯飯及馬鈴薯「パン」の試食會は一般の好評を得たり左に馬鈴薯飯の炊き方と同「パン」の製法及經濟上利益の概要を記す

馬鈴薯飯の炊き方
馬鈴薯飯は色白く形は米に似て味亦外米に劣らず而かも調理方法極めて簡單にして如何なる家庭にても容易に應用することを得加ふるに馬鈴薯は栽培簡易にして素人にも容易に作ることを得如何なる土質にても能く適し僅に三、四ヶ月内外にて收穫し多くの地方に於ては年に二回收穫することを得而かも其

の第一回の收穫期は六七月頃にして米の端境期前を以て食糧自給上効果頗る大なりとす
一、生の馬鈴薯を用うる場合
生の馬鈴薯を（成るべく大形のものを用うるをよしとす）水にてよく洗ひ（古き薯は洗ふ前に一時水に浸す方皮を去り易し）之を摺鉢又は桶等に入れ力を用ゐて搔廻して粗皮の残るものは庖丁にて削り取り之を適當なる器具にて米を四角にしたる位の大きに（）切り（生馬鈴薯一貫目より切片約三升五合を得）直に水に浸し置き（空氣に觸るれば直に赤褐色に變する故）相當の分量に達したる時水中にて手にてよく揉みたる後水を取代へ斯くすること三四回にして（能く洗へば馬鈴薯の臭を去る）其の儘清水に二、三時間浸し置き（夕飯後切りたるときは翌朝まで其の儘水に浸し置くを良しとす）次に白米一升に付其の切片凡一升位を入れよく混合し（混合割合は各自の自由あるも前記の割合あれば多くの家庭に適す）之に米と略同量の水を入れて飯を炊くものとす
今米一升に馬鈴薯の切片一升を混じて炊く場合には水は凡そ一升位にて充分なり是白米は凡二倍以

上の容積に炊殖するも生の芋の切片は水を充分含
 ひを以て水の分量は米のみを標準として加減すれ
 ば足れりとする尚古辛なれば豫め馬蹄薯の切片を熱
 湯に投し數分間煮て用うるときは口觸り一層良好
 なりとする米の上層に切片を載せるときは米飯の如
 く吹き出さるるを以て火を引くことに注意するを
 要す先に細かに切りたる馬蹄薯を洗ひたる水中に
 は澱粉を含み居る故之を残り置き綿布にて濾し塵
 を除き其の水を一時間位静かに置き澱粉が桶の底
 に沈み終りたるを待ち静かに上水を捨て更に新し
 き水を加へ攪拌し再び澱粉の洗ひを待つべし斯く
 すること二、三回にして底に沈みたる澱粉を取出
 し擴げて乾す時は馬蹄薯一貫目より澱粉約二十匁
 を得べし

二、乾燥したる馬蹄薯米を用うる場合

甲)馬蹄薯米の製造法 (小規模に製造する場合)
 馬蹄薯を(成るべく大形にして凹凸の少きものを
 選びをよしとす)よく洗ひ生の馬蹄薯を用うる時
 と同様の方法により皮を去り之を適當なる器械に
 て(貨物大)圖の如き大きさに切りたるものは空
 氣に曝さざる様直に水に浸し置き相當の分量

になりたるるとき手にてよく揉みたる後水を取代
 へ斯くすること三、四回にして別に汲み置きたる
 清水に暫時(二時間以上)浸し次に釜に湯を沸し煮
 立ちたる後芋の切片を筥に入れたるまま湯の中に
 入れ絶えず掻廻し浮びたる皮をすくひどり再び湯
 の煮立ち始めより約五、六分間の後取出し筥の
 まま湯を切りて筥又は板其他適當のものの上に薄
 く擴げ日乾すべし日乾中は時々掻廻して早く且一
 様に乾く様注意すれば晴天一日にて充分乾し上ぐ
 ることを得べし

若し晴天ならざるるときは水中より出すことなく細
 かに切りたるものを生の儘水中に浸し時々水を代
 へ晴天を待つべし(雨天續くときは水一斗につき
 鹽五匁位を入れた盪水に浸し置くをよしとす)斯
 くして乾し上げたるものは馬蹄薯米にして馬蹄薯
 一貫目より凡八、九合を得べし此の場合にも先に
 細かに切りたる馬蹄薯を洗ひたる水中には澱粉を
 含み居るを以て一の場合に於て述べたると同様の
 方法にて取り集め乾燥すべし

乙)馬蹄薯米を用ひて馬蹄薯飯を炊く方法
 馬蹄薯米を用るときは白米一升到付馬蹄薯米凡そ

二合五匁乃至三合(約三割強混合の場合)を能く混
 して炊くと普通とす
 馬蹄薯米に對する水加減は其の容量の二倍内外と
 するを適當とす即ち白米一升を飯に炊くには凡そ
 水一升位を入るるを普通とするも白米一升到付馬蹄
 薯米三合を混して炊くには凡そ一升六七合位の水
 を入るるを適度とす

▼馬蹄薯飯の經濟上の利益

前記の如く白米一升到付馬蹄薯の生の切片一升到
 混合する場合に就き計算すれば此の場合に白米は約
 二倍以上に炊殖へするも馬蹄薯の生の切片は炊殖へ
 せざるを以て白米一升到付馬蹄薯の切片一升を混じ
 て炊きたる飯は恰も白米一升五合の飯に相當す(出
 來上りたる飯に對する馬蹄薯混合歩合は三割三分な
 り)而して馬蹄薯一貫目よりは切片約三升五合を得
 べく馬蹄薯一貫目を三十錢とすれば(共同して産地
 より購入すれば尙其の以下にて得らるべし)切片一
 升の價格は約八錢となる故に今白米一升到付馬蹄薯
 白米一升五合を用ゆる代りに白米一升到付馬蹄薯
 切一升を用ゆる場合には十七錢の利益を得べし

▲馬蹄薯「パン」の製法

一、材料(パン一斤に付)

- イ、馬蹄薯 五十五匁(蒸したるもの)
- ロ、メリケン粉 五十匁
- ハ、乾燥酵母 一個の四分の一
- ニ、砂糖 小匙一杯半
- ホ、鹽 小匙半杯

二、製法の順序

イ、「パン」種の製法

「パン」種を製するには、蒸したる芋五匁をよく
 碎き、其の中に湯一合を入れ、更に砂糖を小匙
 一杯と鹽を半匙とを入れ、よく振盪し、充分混
 合して乳状とし、是を麥酒壺の中に入れて青梅
 綿にて栓を施し、栓の濡れざる程度に湯中に入
 れ、一時間以上煮沸し、攝氏四十度の温度に冷
 し、次の品を入れる。
 別の器に乾燥酵母四分の一を入れ、それに砂糖
 半匙を加へ、更に湯の少量を入れて溶し、溶け
 たるときは前の壺中に入れ、手早く元の通りに
 栓をなす。是を可成一定の温度を保つ様に火鉢
 の側など、一晝夜置くなり。但し夏は別に補
 温の必要なし。兎も角も酵母の繁殖に適當なる

温度を保たしむるを要す。
ここに酸化的醱酵を起す。(アルコールと炭酸瓦斯とを生ず)
中種の製法
麥酒壘の液にて小麥粉(五十匁)を堅軟適度に捏ね、(可成空氣を中に入るとはす)丸め、四十度の温度の所に置く。斯くて二時間半許の後その大き二倍となる。

ハ、仕 上

前の中種の中に、馬鈴薯五十匁の、蒸して碎きたるものを混じ、丸めて油を塗りたる焼型に入れ、數時間放置せば又其の二倍大となる。斯くて天火又は竈に入ること三十分の後焼上る。

若し間食用の爲砂糖分を増す必要あらば、最後の馬鈴薯を混する際入るるなり。

注意 第二回以後は、パン種は中種を少し取り置き是に水二倍を入れ、メリケン粉を捏ねて中種となすことあり。

▼馬鈴薯「パン」の經濟上の利益

馬鈴薯「パン」一斤に要する各材料の經費を細別すれば乾燥酵母一錢、馬鈴薯其他二錢五厘、メリケン

粉六錢、合計九錢五厘にして普通店賣「パン」一斤分十二錢に對し貳錢五厘の利益を得べし。

□麥多收作共進會成績

山口縣農會第一回麥多收作共進會に於ける各郡農會撰拔出品總數は六十三點にして各郡より送付せし現品に就て縣農會に於て最密慎重に乾燥調製の作業を了したる上去る七月廿二日矢島審査長及十一名の審査員は縣農會紀念堂に集合して最後の審査會を開き六十三點中一等賞(賞金百圓)一人、二等賞(賞金五十圓)三人、三等賞(賞金二十圓)十一人を左の如く決定せり

麥多收作共進會審査成績

品種名	反當重量	反當收量	授賞		氏名
			等級	郡村	
小珍好	一九、五六	五、二九	一等厚	映厚	倉重卷三郎
全	二、五九	三、五二	二等	濃富	久樂稱三
牛ノ谷	二、七五	三、四九	全	玖珂岩	岩本龜生
大内	二、〇六	三、〇三	全	龍毛室	吉水團藏
小珍好	三、九七	三、四三	三等	濃富	山時武雄
全	二、四三	三、三三	全	末武南	清水重平
ネツレ	三、三三	三、三三	全	熊毛室	松原寅吉
小鮪	三、六八	三、二七	全	美福大嶺	常岡七造

審査報告

山口縣農會第一回麥多收作共進會審査終了し不肖審査長として茲に其成績を報告するの光榮を有す

抑も今回の出品は總數六十三點にして審査の方法は別に定むる規程に従ひ審査員をして現地に臨み生育の狀況其他諸般の事項を踏査せしめ所定の方法により坪刈法を行ひ最も嚴正に乾燥調製を了し反當り收量を算出し收量順位により一等一點二等三點三等十點計十五點を選抜擬賞せり

惟ふに本年麥作期間の天候は當初播種期に於て降雨溢かりしに反し寒中は比較的温暖に失し積雪罕れなりしを以て分蘗已に振ほざりしが爾後漸く順調に復し相當發育を遂げたりしも最後成熟期に於て連晴二十日に亘り過度の乾燥に陥りし爲め一般に充實作用に支障を來せるの憾ありしと雖本會一等受賞者の如

牛ノ谷	玉島	荒田	小珍好	富田	小珍好	カトヤ
三〇、九三	二九、一三	二七、三三	二六、九七	二六、六四	二二、五三	一〇、七五
三、二七	三、〇七	三、〇五	三、〇三	二、九四	二、九〇	二、七五
阿武大	阿武大	吉敷秋	都濃富	玖珂河	都濃末武南	阿武入井
國宮本	宮本	池田末	安光元	山田村	武居善	山本菊次郎

きは此間に於て反當五石以上の實收を挙げ得たるは其努力大に賞讃に値すべし只だ第二位以下に至りて其收量甚しく低下し一等受賞者との距離著しきは遺憾とする所なり然りと雖是を本縣從來平均反當收量に比するときは非常なる懸隔を有し麥作改良上一新曙光を認め得たるを喜ぶ而して右等出品中比較的優其の成績を挙げたるは厚狹、都濃の二郡にして栽培上改善工風を凝したるの跡歴然たりと雖も其他の各郡に於ては氣候土質等天恵に依頼せる外特に人為的努力の認むべきもの少く就中佐波郡の如きは由來麥作地として地勢土質等殆んど間然する所なきに係らず絶て出色のものなきは憾なき能はず今後一段の奮勵を要すべし

今出品中其成績の不良なるものに付之が原因を探究するに(一)品種の撰擇を誤り多收に適せざるものを栽培したること(二)土地利用の方法拙劣にして徒に溝中雁岐間を廣くし麥の蒔付面積を過少ならしめたること(三)施肥量貧弱にして十分の發育を遂ぐる能はざりしこと(四)適度の培土を行はざりし爲め麥發育軟弱に陥りたること等は其主なるものにして今後大に改善の要ありと信す

阿武郡報

之を要するに今回の共進會なる本縣に於ては實に最初の試みにして其成績の如き基より未だ充全なりと稱すべからずと雖も由來當業者の麥作に對する觀念或は頗る冷淡にして其生産能率の期待甚だ寡少なりしに對し茲に一新記録を作りたるものにして一般當業者をして麥作改良の前途甚だ洋々たるものあるを自覺せしめたる効果の頗る大なるものあるは信じて疑はざる所なり冀くば今回の成績に鑑み各自の地勢風土に應じて更に之を經濟的に應用し延て本縣麥作の面目を一新せんことを切望に堪へざるなり

大正八年七月二十五日

山口縣農會第一回麥多收作共進會審査長

山口縣農事試驗場長 矢島 慧

右受賞者十五名を郡別にせば都濃郡五人玖珂郡三人熊毛郡阿武郡各二人厚狹郡美濃郡各一人なり出品總點數六十三點中最低收量と譽ぐれば美濃郡一石四斗六升四合、大津郡の一石五斗二升二合豐浦郡一石五斗七升九合、吉敷郡一石八斗八升三合、都濃郡一石九斗五升、熊毛郡の二石一斗三升五合、阿武郡二石一斗四升三合なり而して本郡の出品點數は九點なるが大體に於て他郡に優れるの好

成績を示せる如く本郡麥作増收の前途頗る餘裕あり尙右受賞者以外の出品者七名に對し本郡農會より頭記の賞金を授與せり其の成績左の如し

賞金	品名	反當重量	町村	氏名
三〇圓	小豊年	二五、九四	樺東村	國守倉之進
三〇圓	小珍好年	二〇、五七	樺東村	中原太八
三〇圓	キヨムギ	九五、九四	大井村	田中龜吉
三〇圓	コシノカ	九四、四三	全	水津林吉
三〇圓	タギ	九三、九二	樺東村	森永仁三
三〇圓	富田	九三、九二	樺東村	岡熊吉
二五圓	小	八三、六七	大井村	田中半二郎
二五圓	年	八三、六七	大井村	
二五圓	小	八三、六七	大井村	

農業巡回展覽會

山口縣農會主催に係はる農業巡回展覽會は八月十七日福賀村を先頭に彌富小川田萬崎の各村を経て同二十五日須佐村を以て終了せり、本會は普通農事養蠶、畜産の三部に分てり畜産は長崎栗野兩縣技手之が説明の任に當り斯業に於る實物、模型、圖畫、統計を示して世界に於ける畜産の大勢より説き起して本郡の狀態に及ぼし國家として本縣本郡として及び農民として牛飼育の必要及利益を

阿武郡報

當事者に徹底せしめ本郡殊に今回開催地に於ては肥養よりも生産、育成の土地に適せるを示し性質の判斷法に及び青草の牛の飼料として最も適當せることより冬季間の食物として青草の漬物即ちエンシレーヨの獎勵をなし野草の改良として大津郡向津具村に於けるタニワタン(牛コヤシグサ)を紹介し積の運動をなさしむるに付實益の件へる見島の荷鞍を示して實情を述べ又各濃厚飼料に對し一々含有の滋養分量及時價を以て購入飼料の選擇法を知らしむ二時間に亘り講話す

普通農事は羽隅縣農會技手光永郡農會技手之に當り稻作増收方法として品種改良法土地改良中深耕獎勵施肥の方法病蟲害の驅除豫防法を圖畫模型により具体的に示し更に麥作の増收法を説き進んでは農家の副業として果樹特用作物の栽培法家庭工業として他府縣の生産品並に實情を一時間半に涉て説明せり

蠶業は岩田縣農會技手之に當り桑樹栽培法を説き飼育に入りては蠶種の選擇法春夏秋に於ける飼育法を圖畫統計蠶生絲の實物によりて詳細なる説明すること約一時間半に及べり

各町共各戸より一名宛の當業者の外青壯年團員小學校高等科兒童處女會婦人會出席し斯業の開發徹底に多大

の効果を奏せり縣農會に於ては更に内容を充實し年々引續きて未開地の町村に開設の豫定なり今開催の月日開催及出席人數を示せば左の如し

開催月日	村名	出席人員
八月十七日	福賀	六
八月十九日	彌富	六
八月二十一日	小川	八
八月二十三日	田方	四
八月二十五日	須佐	六
計		三〇

命令

阿武郡書記七位 繩田 誠記
阿武郡書記 原 由 輔
阿武郡技手 工藤 金綱
阿武郡水産技手 鹿兒島縣へ出向ナ命ス(八月二十七日)

町村吏員異動

大正八年九月一日認可 德佐 村長 藤井 二郎 兼任
大正八年八月十四日認可 生雲 村助役 阿川 儀太郎 新任

報 德 千 話

(人心の危機)

「昇平の時、百物豊足の國に生れて、貧苦を憂ふる者は、大湖に沈みて渴を呼ぶが如し、何ぞ其愚なるや、一旦自ら省みて報徳の志を興さば、則ち安くに往いてか足らざるものあらん」これ、二宮翁の金言にあらずや。今や百物豊足し、金銀財寶餘りありて、生活難を訴ふる者益々多し。是れ抑々誰の罪ぞ、少く勞して多く利せんと欲し、得る所少くして費す所多からんと欲し、富んで安んずる所を知らず、貧にして且つ奢らんと欲す。斯くの如くにして自ら省み、自ら満足する所を知らずんば、結局奪はざれば飽かざるに至らん。翁又曰く「百物充足するも、其の恩澤を報ずる心なければ終に不足の心生ず」と。方今の所謂生活難なるもの、外界の事情もさることながら一は當人の一心に存せり。故に今日の急を救ふの策先づ其心を救ふに在り、先づ其心を足らしむるに在り。然らずんば人毎に、之に與ふるに千金を以てし、人毎に飽食暖衣而して逸居せしむるも、不平不満は止む期よからん。失れ物資には限り有り、人欲には限り無し。限りある物資を以て、限りなきの人欲に應ずる、固より其の難さを知る。一人成金となる者あれば、百人之を羨みて平かならず、他が萬圓の賞與を貰へば我も萬圓の賞與を欲し、他が三百圓の單衣を造れば我も三百圓の單衣を欲す。之を羨み之を欲す。而して得ざれば茲に憤り茲に慚る。舉世滔々斯くの如く、放逸邪修を希ひて、止まる所を知らず、省みる所を知ること無し。人心の危機此處に在り、時代の大患此處に存す。

心足れば物足るものを物足りて

心の足らぬ人のおろかさ

参 考 資 料

學校名	男	女	計	本順	月	前	位
長高小	九八、九七	九九、五八	九九、一九	一	一	一	一
椿西	九九、二二	九九、一三	九九、一七	二	二	二	二
明木	九八、九六	九九、三七	九九、一六	三	三	三	三
高瀨	九八、八四	九八、九二	九八、八七	四	四	四	四
立野	九八、六二	九八、一一	九八、三九	五	五	五	五
篠目	九八、五五	九八、一三	九八、三五	六	六	六	六
佐並	九八、六四	九七、八八	九七、九四	七	七	七	七
持坂	九八、六四	九七、一五	九七、八三	八	八	八	八
三見	九六、九一	九八、八七	九七、五八	九	九	九	九
福川	九七、五二	九七、六四	九七、五八	一〇	一〇	一〇	一〇
上川	九七、六七	九六、八一	九七、一一	一一	一一	一一	一一
大字田	九七、三四	九六、八七	九七、一〇	一二	一二	一二	一二
嘉年島	九八、二八	九六、〇九	九七、〇三	一三	一三	一三	一三
野呂	九七、六四	九六、四〇	九六、九三	一四	一四	一四	一四
野川	九六、八〇	九七、〇七	九六、八九	一五	一五	一五	一五
鈴野	九七、五一	九六、一六	九六、八八	一六	一六	一六	一六
越野	九七、二〇	九六、五八	九六、八八	一七	一七	一七	一七
多磨	九六、八三	九六、七二	九六、七八	一八	一八	一八	一八

目次

- 一、町村立小學校尋常科兒童出席步合表
- 二、同高等科兒童出席步合表
- 三、町村公民ニ關スル調査表
- 四、大正八年度陸軍簡閱點呼成績表
- 五、同陸軍簡閱點呼參會者軍服着用比較表
- 六、同陸軍簡閱點呼參會者服裝別其ノ他調査表
- 七、内地米現在高調査表

阿武郡報

第三十七號

彌山三大大明字嘉明佐椿紫	學校名	男	女	計	本順	月	前	位
彌山三大大明字嘉明佐椿紫	一、町村立小學校高等科兒童出席歩合表	九七、六四	一〇〇、〇〇	九八、二六	順	一	一	二
富田見井倫田年木並西福		九八、一〇	九九、四二	九八、五五		一〇	一〇	一〇
		九七、五一	九九、三三	九八、三四		九	九	九
		九九、〇五	九九、六〇	九九、五五		八	八	八
		九九、二一	九九、三三	九九、五五		七	七	七
		九九、八五	九九、六〇	九九、七二		六	六	六
		九九、一八	九九、三三	九九、二五		五	五	五
		九九、四〇	九九、四二	九九、四一		四	四	四
		九九、二七	九九、四二	九九、三三		三	三	三
		九四、三七	九〇、〇〇	九二、五〇		二	二	二
		九四、二〇	八七、五五	九〇、四一		一	一	一
生高吉見		九四、三三	八七、二一	九〇、二四		四	四	四
雲俣部島		九〇、一三	八七、二六	八八、六四		二	二	二
前月郡平均		九六、四六	九五、六二	九五、三七		一	一	一
本月郡平均		九五、八五	九六、五七	九五、七九		一	一	一

阿武郡報

第三十七號

奈地彌藏育相白德木半下福椿明小大川龜紫篠	學校名	男	女	計	本順	月	前	位
奈地彌藏育相白德木半下福椿明小大川龜紫篠	小	九三、四五	九二、六一	九三、〇三	順	三	三	三
古福富喜英島水佐岡田川田東倫川井上		九二、八三	九四、〇一	九三、四六		三	三	三
		九四、六四	九五、三八	九四、〇七		三	三	三
		九二、八四	九四、二八	九四、二四		三	三	三
		九四、四五	九四、二八	九四、三六		三	三	三
		九八、六四	九〇、三八	九四、八九		三	三	三
		九五、四六	九四、七三	九五、一〇		三	三	三
		九四、四八	九七、六三	九五、三八		三	三	三
		九五、四七	九五、五九	九五、五三		三	三	三
		九五、七五	九五、八三	九五、七九		二	二	二
		九七、二八	九三、六五	九五、〇五		二	二	二
		九五、六二	九六、五一	九六、〇七		二	二	二
		九五、七五	九六、四〇	九六、〇七		二	二	二
		九六、四七	九六、七一	九六、一〇		二	二	二
		九六、一九	九六、四七	九六、三三		二	二	二
		九六、四七	九六、三八	九六、四一		二	二	二
		九七、二九	九五、五一	九六、四四		二	二	二
		九七、五一	九六、三九	九六、五三		二	二	二
		九六、七三	九六、四三	九六、五七		二	二	二
		九六、八九	九七、二六	九六、七四		二	二	二
生高吉見		九三、四五	九二、六一	九三、〇三		一	一	一
雲俣部島		九二、八三	九四、〇一	九三、四六		一	一	一
前月郡平均		九四、六四	九五、三八	九四、〇七		一	一	一
本月郡平均		九二、八四	九四、二八	九四、二四		一	一	一

(三)

(三)

報 郡 武 阿

第三十七號

町村名	三、町村民ニ關スル調査表		他ノ要件ハ具備スルモ地租ヲ納メヌ又ハ其他ノ直接國稅二圓未滿ノ爲公民タラサルモノ、數
	公 民	數	
萩 郡 東 分	一、三	一、三	一、八
椿 郡 東 分	二、七	二、七	一、六
山 田	五、二	五、二	二、一
三 見	四、五	四、五	二、七
明 木	三、三	三、三	二、二
佐 並	三、三	三、三	二、二
川 上	六、〇	六、〇	二、五
篠 生	三、六	三、六	二、二
生 雲	五、三	五、三	三、二
地 福	四、三	四、三	三、〇
德 佐	八、二	八、二	九、三
嘉 年	三、六	三、六	一、〇
高 侯	三、一	三、一	一、七
吉 部	四、二	四、二	一、七
福 川	四、〇	四、〇	一、八
紫 井	四、三	四、三	七、八
大 井	四、三	四、三	七、八

(五)

報 郡 武 阿

第三十七號

學校名	前月郡平均		本月郡平均		計	本 月	前 月	位
	男	女	男	女				
小 川	九七、一二	九七、七八	九七、三三	九七、〇一	二二	二二	二二	二二
德 佐	九六、八五	九八、二〇	九七、一九	九七、〇一	一三	一三	一三	一三
多 磨	九七、六九	九五、九八	九六、九六	九六、七二	一四	一四	一四	一四
高 侯	九七、一一	九六、五七	九六、九六	九六、七二	一五	一五	一五	一五
育 英	九五、五六	九九、四〇	九六、九五	九六、七二	一六	一六	一六	一六
奈 古	九七、九〇	九五、二五	九六、七二	九六、六七	一七	一七	一七	一七
福 田	九七、七五	九三、九五	九六、六七	九六、六〇	一八	一八	一八	一八
生 雲	九五、七〇	九八、六七	九六、六〇	九六、四八	一九	一九	一九	一九
篠 生	九六、二〇	九七、一四	九六、六〇	九六、四八	二〇	二〇	二〇	二〇
地 福	九六、四九	九六、四七	九六、一八	九六、一四	二一	二一	二一	二一
吉 部	九五、二九	九七、七五	九六、一八	九六、一四	二二	二二	二二	二二
椿 東	九八、三〇	九三、六六	九六、一四	九五、六九	二三	二三	二三	二三
川 上	九五、二二	九六、五九	九五、六九	九五、三九	二四	二四	二四	二四
福 川	九五、四〇	九五、三八	九五、三九	九五、三九	二五	二五	二五	二五
大 島	八八、〇〇	八八、五七	八八、一四	八八、一四	二六	二六	二六	二六
見 島	八一、〇六	七五、〇〇	八〇、三五	八〇、三五	二七	二七	二七	二七
本月郡平均	九六、五八	九六、五〇	九六、五六	九六、〇一	一	一	一	一
前月郡平均	九五、二八	九四、五七	九五、〇一	九五、〇一	一	一	一	一

(四)

報 郡 武 阿

第三十七號

町名	種目	送付ヲ受ケタル令狀數	參會總員	疾 病	不 明	刑 期 中	無 故 不 參	員 計	參會者ニ對スル不參者百分比	順位
川上	籾	三三八	三三〇	一	二	一	一	五八	一七、五七	二六
篠生	籾	二二四	二二〇	一	二	一	一	四八	九、一七	二一
生雲	籾	一一八	一一三	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
地福	籾	一四〇	一三三	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
德佐	籾	一四〇	一三三	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
嘉年	籾	五四	五〇	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
高俣	籾	六三	五八	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
吉部	籾	九二	八五	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
福川	籾	一六〇	一五五	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
紫福	籾	一〇二	九三	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
大井	籾	一〇一	九三	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
奈古	籾	一三八	一二九	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
宇田郷	籾	五〇	四六	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
福賀	籾	八三	八二	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
須佐	籾	一六三	一五二	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
彌富	籾	八五	八〇	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
小川	籾	一九六	一九一	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
田崎	籾	二二四	二一五	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
六島	籾	五二	五一	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
合計	籾	三、一六七	二、九三五	六	一三	一	一	二二	七、九〇	四

一、備考見島村ハ陸軍召集令第六十四條ニ依リ簡閱點呼ヲ省略セラル

(七)

報 郡 武 阿

第三十七號

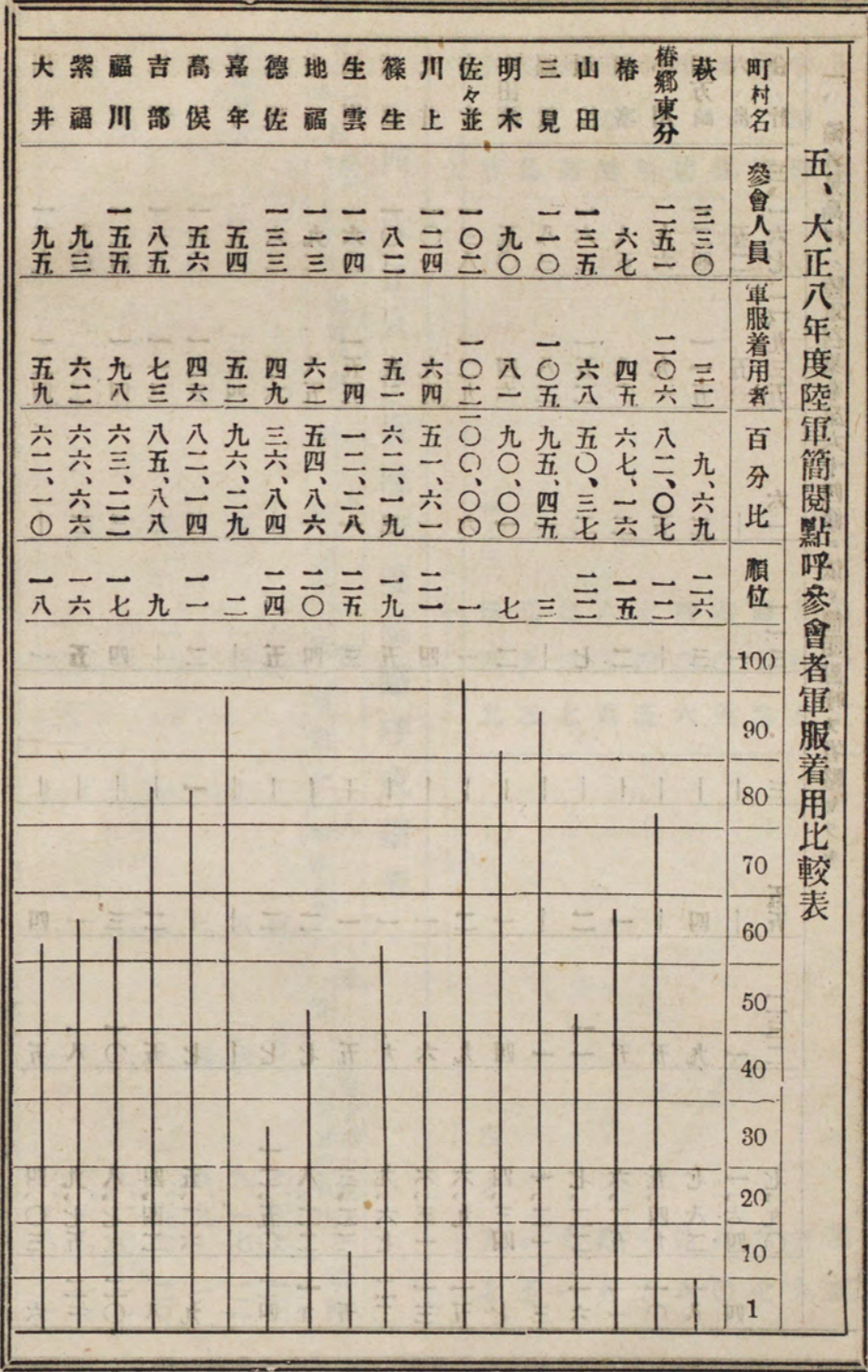
町名	種目	送付ヲ受ケタル令狀數	參會總員	疾 病	不 明	刑 期 中	無 故 不 參	員 計	參會者ニ對スル不參者百分比	順位
奈古	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	一七、五七	二六
宇田郷	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	九、一七	二一
福賀	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
須佐	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
彌富	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
小川	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
田崎	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
六島	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	九、一七	二二
見島	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	五、九七	二二
合計	籾	一〇三	一〇二	一	二	一	一	二四	七、九〇	四

四、大正八年度陸軍簡閱點呼成績表

合計	三、一六七	二、九三五	六	一三	一	一	二二	七、九〇	四
見島	二、九三五	二、八四〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
六島	二、八四〇	二、七二五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
田崎	二、七二五	二、六一〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
小川	二、六一〇	二、四九五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
彌富	二、四九五	二、三八〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
須佐	二、三八〇	二、二六五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
福賀	二、二六五	二、一五〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
宇田郷	二、一五〇	二、〇三五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
福川	二、〇三五	一九二〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
紫福	一九二〇	一八〇五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
大井	一八〇五	一六九〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
奈古	一六九〇	一五七五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
宇田郷	一五七五	一四六〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
福賀	一四六〇	一三五五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
須佐	一三五五	一二四〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
彌富	一二四〇	一〇二五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
小川	一〇二五	九一〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
田崎	九一〇	七九五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
六島	七九五	六八〇	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
見島	六八〇	五六五	一	一三	一	一	二二	七、九〇	四
合計	三、一六七	二、九三五	六	一三	一	一	二二	七、九〇	四

(六)

五、大正八年度陸軍簡閱點呼參會者軍服着用比較表



六、大正八年度陸軍簡閱點呼服裝別其ノ他調査表

町村名	參會總員	軍服	洋服	羽織袴	羽織袴ニテ袴ナキ者	羽織袴ニテ羽織袴ナキ者	絹布ト認ムル者	木綿、認ムル者	勳章佩奉公袋ナキ者	貯金通帳ナキ者
奈古	一二九	一二二	九四、五七	二二	三	一	一	一	一	一
宇田郷	四六	四〇	八六、九五	一	一	一	一	一	一	一
福賀	八二	七八	九五、一二	一	一	一	一	一	一	一
須佐	一五二	一一〇	七二、三六	一	一	一	一	一	一	一
彌富	八〇	六八	八五、〇〇	一	一	一	一	一	一	一
小川	九一	八二	九〇、一〇	一	一	一	一	一	一	一
田万崎	一一五	七九	六八、六九	一	一	一	一	一	一	一
六島	五一	二四	四七、〇五	一	一	一	一	一	一	一
合計	二、九三五	一、八七二	六三、七八	二二	三	一	一	一	一	一
萩	三三〇	三二二	二七	二二	三	一	一	一	一	一
椿郷東分	二五一	二〇六	一七	二二	三	一	一	一	一	一
山田	一三五	四五	一	二〇	三	一	一	一	一	一
三見	一〇〇	六八	一	二〇	三	一	一	一	一	一
明木	九〇	八一	一	二〇	三	一	一	一	一	一
佐々並	一〇二	八一	一	二〇	三	一	一	一	一	一
川上	一二四	六四	一	二〇	三	一	一	一	一	一
篠生	八二	五一	一	二〇	三	一	一	一	一	一
生雲	一一三	六二	一	二〇	三	一	一	一	一	一
地福	一一三	一四	一	二〇	三	一	一	一	一	一
德佐	一三三	六二	一	二〇	三	一	一	一	一	一
嘉年	五四	四九	一	二〇	三	一	一	一	一	一
高俣	五六	五二	一	二〇	三	一	一	一	一	一
吉部	八五	四六	一	二〇	三	一	一	一	一	一
福川	一五五	七三	一	二〇	三	一	一	一	一	一
紫井	九三	九八	一	二〇	三	一	一	一	一	一
大井	九五	六二	一	二〇	三	一	一	一	一	一
合計	二、九三五	一、八七二	一	二二	三	一	一	一	一	一

町村名	米商仲買商所有石數	地主其他所有石數	合計	大正七年七月末現在	大正八年七月末調	比較
萩	三〇四	四三	七四二			
椿郷東分	一六七	四二	五七九			
山田	二〇	三二	三二二			
三木	四六	一三八	一八四			
明並	二二	四四〇	四六二			
佐上	二九	一〇一三	一〇一三			
川上	四八	一〇八九	一一三七			
篠生	一一	七〇〇	七一一			
生雲	二〇	六〇〇	六二〇			
地福	七〇	九〇〇	九七〇			
徳佐	八七	八三〇	九一七			
嘉年	八	三、一〇〇	三、一〇八			
高俣	八	八七八	八八六			
吉部	七二	五五〇	六二二			
福川	一〇〇	一、三二七	一、四二七			
紫井	六〇	一、八〇〇	一、九〇〇			
大井	三七	一、三〇〇	一、三三七			
合計	三〇四	四三	七四二			

七、内地米現在高調査表

大正八年七月末調

(△ハ減ヲ示ス)

大正七年七月末現在

町村名	參會總員	軍服	洋服	羽織袴	羽織ニテ者キモノ	羽織袴ナキモノ	絹布ト認ムル者	木綿ト認ムルモノ	勳章佩奉公袋ナキモノ	貯金通帳
萩	八二	五一	九	一四	八			二二	四	二五
生雲	一一	一四		三	二			八		一四
地福	一一	一四		三	二			八		一四
徳佐	一三	四九		七	〇			二〇		一〇
嘉年	五三	四九		二	〇			八		一〇
高俣	五五	四六		七	〇			二〇		一〇
吉部	八五	七三		四	七			一〇		一〇
福川	一五	九八		三	〇			四		一〇
紫井	九三	六二		一	〇			二		一〇
大井	九五	五九		二	〇			二		一〇
奈古	二九	二二		四	五			〇		一〇
字郷	四六	四〇		三	二			〇		一〇
福賀	八二	七八		一	四			三		一〇
須佐	一五	一〇		三	五			〇		一〇
彌富	八〇	六八		六	一			七		一〇
小川	九一	八二		八	六			五		一〇
田島	一一	七九		一	五			七		一〇
六島	五一	二四		一	四			三		一〇
合計	三、九三五	二、八七二	一一二	六八九	二二〇	二二	一六七	七七四	二二二	六五

奈古 宇賀 福佐 須富 彌川 小島 田島 六島 見島 合計

二一三	六〇〇	八〇〇	五〇〇	一〇〇	一九〇	六〇	一、六七六
三一九	三六四	二四七	五〇〇	八九六	一、三八四	五九八	二〇、九八五
三四〇	三六七	二四七	五八〇	九四六	一、四八四	六一七	一一、六六一
八一	八二	二九	一三一	八九			三、七四〇

阿武郡教育會懸賞募集廣告

懸賞問題

金貳圓ヲ與ヘナバ如何ニ有効ニ使用セントスルカ

注意

- 一 應募者ハ青年團員タルベキコト
- 二 但シ團體名ヲ以テ具體案ヲ作製シ提出スルモ妨ケナキモ可成團員個人ヲ可トス
- 三 二 應募者ハ可成詳細ニ具體案ヲ認メ提出スルコト
- 四 三期限ハ本年九月三十日限トス
- 五 四 答案ハ本會ニ於テ審査シ上有効ト認ムルモノ拾人ヲ選定シ各別ニ金貳圓ヲ贈リ其ノ實行ヲ期セシム

大正八年八月

阿武郡教育會

阿武郡報第三十七號 大正八年八月廿五日發行 ©大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 ©每月一回二十五日發行 (一部代價金拾錢)